

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 2 日作成)

小委員会名	環境振動測定分析小委員会		主 査 名：尻無濱昭三 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)		委員長名：秋元 孝之 主 査 名：松本 泰尚
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建物内における環境振動の評価、予測および制御を行うにあたっては、正確な測定と分析が不可欠である。統一された手法による測定データの蓄積は、環境振動に関する居住性能を高めるために非常に有益である。建物内の環境振動の測定、分析方法については2004年に刊行された『建築物の振動に関する居住性能評価指針・同解説』に記載されている。その後10年以上が経過し、2018年にはこの指針の改定版となる『日本建築学会環境基準 AIJES-V0001-2018 建築物の振動に関する居住性能評価規準・同解説』が刊行された。本小委員会では、新評価規準に対する測定・分析方法や留意点、その他の多くの環境振動測定事例を収集し、測定分析方法の体系化を目指す。その成果は広く会員に展開し、居住性の向上に寄与することが本小委員会設置の目的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初年度：2018年に刊行された『建築物の振動に関する居住性能評価規準・同解説』で評価するための振動測定・分析方法に関して整理し、既存の実測データの分析や共同実験などによる測定・分析を行い、その検証方法などを検討する。また、前小委員会の資料作成WGによる「建築物における環境振動測定・分析に関する資料」についての意見を収集する。 ・ 2年度～3年度：初年度に決めた新基準の検証方法を実施する。具体的には、小委員会として環境振動測定したデータの再分析や新たな環境振動実験を実施し、測定方法、分析方法等について検討を行う。また、新しい知見などは建築学会大会などで公表する。また、測定分析に関する資料に対する意見を整理し、ブラッシュアップする。 ・ 4年度：既存の測定データや共同実験等による測定・分析を行った結果を再整理して、分析方法の試行を実施する。3年分の活動成果を整理し、評価基準の検証結果も織り込んだ「建築物における環境振動測定・分析に関する資料」の改訂に向けた準備を行う。 		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有 (1名)</p> <p>主査：尻無濱昭三 (鉄建建設)</p> <p>幹事：神谷俊行 (ベネック振動音響研究所)、平光厚雄 (国土技術政策総合研究所)</p> <p>委員：足立大 (リオン)、石田理永 (石田振動環境研究室)、小谷朋央貴 (フジタ)、佐野泰之 (愛知工業大学)、清水克将 (鉄道総合技術研究所)、田中彩 (鹿島建設)、原田浩之 (三井住友建設)、平松和嗣 (フリーランス)、松田貫 (BL)、森川和彦 (清水建設)、横島潤紀 (神奈川県)、久保和康 (特許機器、2022 年 7 月から)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2022 年度予算	52,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有</p> <p>委員会 HP アドレス： https://www.ajj.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fc00-12/fc10-12.html</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	

大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予定回数の5回(計画含む)の小委員会を開催することができた。 2. 外部ストレージサーバーを利用した測定データ共有化を試行して、小委員会で分析・評価方法の検証を行った。
委員会活動の問題点 ・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナ感染防止の観点から、小委員会メンバーが集まっての新たな振動測定ができない。 2. 学会の委員会オンラインストレージは、データ容量の関係から過去の測定データが保管管理できない。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>1. 新型コロナウイルスの影響もあったが、年度計画の 80%以上（計画含む）の小委員会を開催することができた。</p> <p>2. 外部クラウドサーバーを利用して、過去の測定データの共有化を図り、過去の測定データを利用して、2018 年版の新規準評価等に関する議論を進めた。</p> <p>3. 前小委員会の活動成果物「建築物における環境振動測定・分析に関する資料」を一般公開化（学会会員以外の閲覧可）した。</p> <p>4. 小委員会活動成果について外部に報告・投稿（第 38 回環境振動シンポジウムや AIJ 大会）を行った。</p> <p>5. 新型コロナ感染防止の観点から、小委員会メンバー合同による振動測定等については来期以降へ延期した。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。